

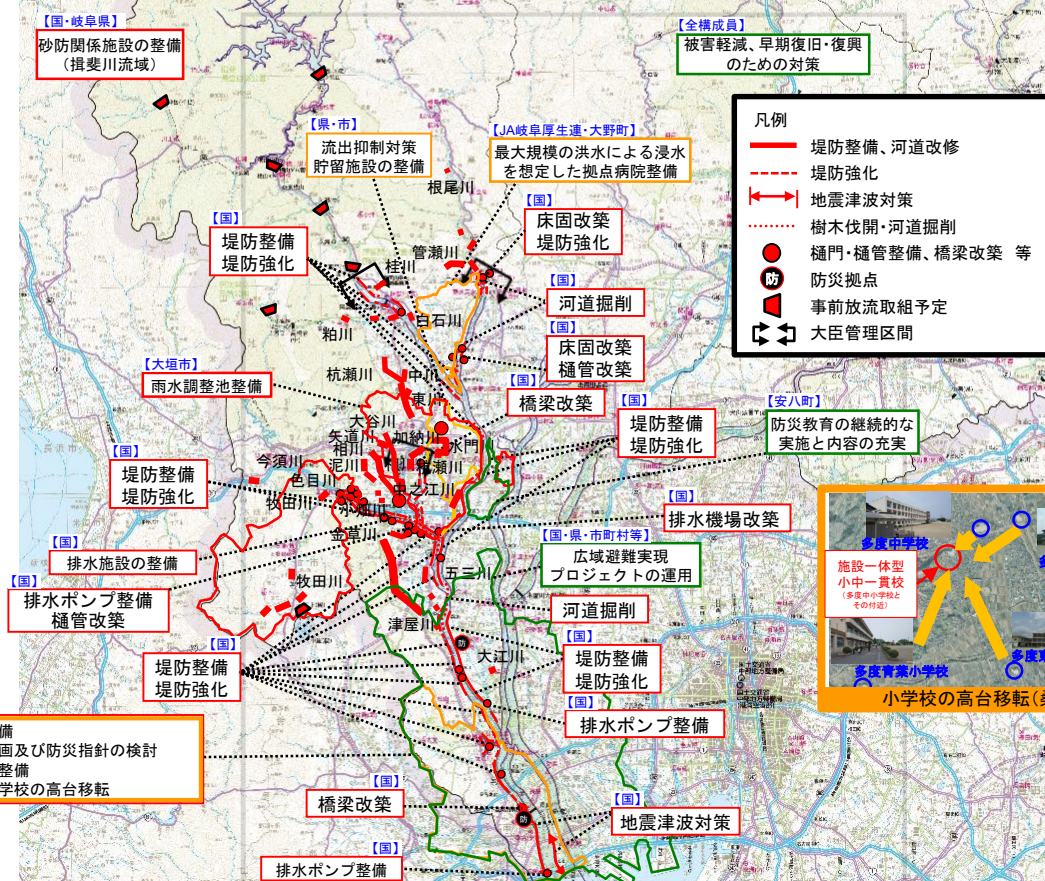
木曽川水系揖斐川流域治水プロジェクト【位置図】

～ゼロメートル地帯を擁する流域の壊滅的な被害を防止・軽減するための流域治水対策～

- 令和元年東日本台風では、各地で戦後最大を超える洪水により甚大な被害が発生したことを踏まえ、揖斐川流域においても、事前防災対策を進める必要がある。
- 日本一のゼロメートル地帯など広大な低平地に人口・資産が集積する流域であり、水害リスクが高いことから、事前放流や水門川流域特定構造物改築事業や流域の避難所としても活用できる福島・高須地区防災拠点の整備、流出抑制対策等を実施する。
- これらの取り組みにより、国管理区間においては、戦後最大の昭和50年8月洪水及び平成14年7月洪水と同規模の洪水が発生しても安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図る。

岐阜県管理区間

杭瀬川・東川・加納川・矢道川・相川・水門川・泥川・大谷川・津屋川・中之江川・管瀬川・根尾川・桂川・粕川・白石川・中川・色目川・小畑川・金草川・五三川・大江川・今須川・牧田川等の河道改修、放水路整備、調整地整備、排水機場整備 等



■ 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

- 洪水氾濫対策
 - ・ 河道掘削(に併せた水際湿地再生)、樹木伐開、横断工作物の改築、堤防強化、堤防整備、地震津波対策、防災拠点整備等
- 土砂災害対策
 - ・ 土砂災害対策(砂防関係施設の整備、治山施設の整備 等)
- 内水氾濫対策
 - ・ 雨水排水網の整備、排水施設整備 等
- 流水の貯留機能の拡大
 - ・ 利水ダム等9ダムにおける事前放流等の実施、体制構築 (関係者:国、水資源機構、中部電力(株)、イビデン(株)など)
- 流域の雨水貯留機能の向上
 - ・ 水門川流域における総合治水対策特定河川事業の実施
 - ・ 雨水貯留施設整備(雨水調整池等)
 - ・ 雨水貯留浸透施設設置補助制度
 - ・ 流域内における森林整備

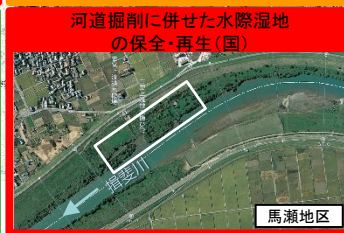
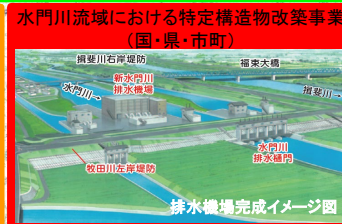
■ 被害対象を減少させるための対策

- 水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まいの工夫
 - ・ 立地適正化計画及び防災指針の検討
 - ・ 土地の開発指導等
- ・ 最大規模の洪水による浸水を想定した拠点病院の地盤嵩上げ
- ・ 消防本部・小学校の高台移転、津波避難施設整備

■ 被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

- 土地の水災害リスク情報の充実
 - ・ 水災害リスク情報の空白地帯の解消(洪水・内水・高潮・ため池・土砂災害等HMの策定・周知)
- 避難体制等の強化
 - ・ ハザードマップやタイムラインの見直し・作成支援
 - ・ 防災教育の継続的な実施と内容の充実
 - ・ 水防団等による水防訓練の実施
 - ・ 危機管理型水位計等・河川監視カメラ設置・増設
 - ・ 無線、アプリ、WEB等を用いた防災情報の発信(マスコミ連携含む)
 - ・ 要配慮者利用施設等の避難確保計画の作成推進・支援
 - ・ 確実かつ効率的な水防活動に向けたハード整備や関係機関と連携した訓練等の実施
 - ・ 木曽三川下流部広域避難実現プロジェクトの運用

■ グリーンインフラの取り組み 詳細は次ページ



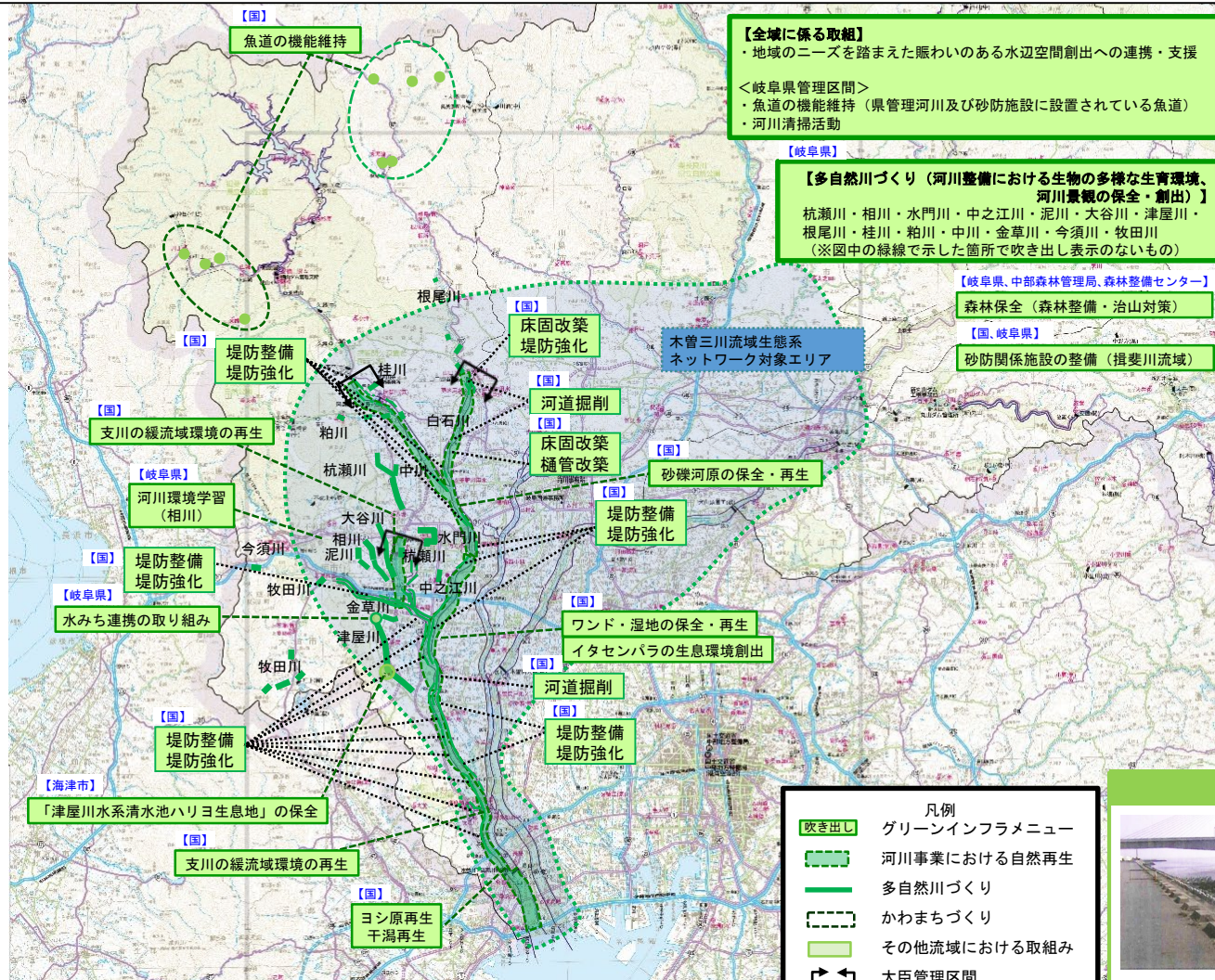
※別紙【参考資料】で事例を紹介している施策および実施主体を地図上に示している(各施策の実施主体はこの限りではない)。
※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。
※令和2年7月豪雨災害による被災箇所における対策については、今後の調査・検討等により対策内容やその範囲等が変更となる場合がある。

木曽川水系揖斐川流域治水プロジェクト【位置図】

～ゼロメートル地帯を擁する流域の壊滅的な被害を防止・軽減するための流域治水対策～

●グリーンインフラの取り組み 『広大な濃尾平野を活かした多様な生息環境の再生と賑わいある水辺空間の創出』

- 木曽川水系は、広大に変化に富んだ地形、地質及び気候を有しており、上流域（渓流）、中流域（砂礫河原）、下流域（ワンド等湿地）、河口域（干潟・ヨシ原）それぞれに、良好かつ多様な自然環境を有している。
- 木曽三川の良好な自然環境の保全を推進しつつ、より優れた動植物の生息・生育・繁殖環境を創出するため、今後概ね12年間に支川の緩流域環境の再生やワンドの保全、干潟等の自然再生事業を行う。合わせて、環境教育や防災教育にも積極的に取り組む。
- また、「多自然川づくり」の概念に沿った治水対策を推進し、治水安全度の向上と豊かな自然環境の維持・創出を図るなど、自然環境が有する多様な機能を活かすグリーンインフラの概念に基づく取組を推進する。



●自然環境の保全・復元などの自然再生

- ・支川の緩流域環境の再生
- ・ワンド・湿地の保全・再生
- ・干潟再生、ヨシ原再生
- ・魚道の機能維持による生息環境の保全（岐阜県、越美山系砂防事務所）
- ・水みち連携の取り組み（岐阜県）

●生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成

- ・イタセンバラの生息環境創出
- ・ニホンウナギの生育環境検討
- ・「津屋川水系清水池ハリヨ生息地」の保全（海津市）

●健全なる水循環系の確保

- ・森林整備・保全（岐阜県、中部森林管理局、森林整備センター）

●治水対策における多自然川づくり

- ・湿地・砂礫河原の保全・再生
- ・整備における生物の多様な生育環境、河川景観の保全・創出（岐阜県）

●自然環境が有する多様な機能活用の取組み

- ・民間協働による水質調査
- ・小中学校などにおける河川環境学習（岐阜県）
- ・木曽川水系生態系ネットワーク推進協議会
- ・木曽川水系イタセンバラ保護協議会（環境省）

●その他

- ・砂防関係施設の整備（越美山系砂防事務所、岐阜県）
- ・河川清掃活動（岐阜県）

揖斐川流域におけるグリーンインフラの取り組み



揖斐川における干潟再生（国）

干潟観察会（国）

※具体的な対策内容については、今後の調査・検討等により変更となる場合がある。

木曽川水系揖斐川流域治水プロジェクト【ロードマップ】

～ゼロメートル地帯を擁する流域の壊滅的な被害を防止・軽減するための流域治水対策～

- 揖斐川の上下流・本支川の流域全体を俯瞰し、国、県、市町村、あらゆる関係者が一体となって「流域治水」を推進する。

【短 期】 中下流部での氾濫をできるだけ防ぐ・減らすため、堤防整備や雨水排水網の整備、利水ダム等における事前放流等を実施するとともに、被害軽減のため、土地の開発指導や要配慮者利用施設等の避難確保計画の作成・支援や水災害リスク情報の空白地帯の解消に向けた検討、広域避難実現プロジェクト等を推進する。

【中 期】 氾濫をできるだけ防ぐ・減らすため、堤防整備等を実施するとともに、被害軽減のため、立地適正化計画及び防災指針の検討等を推進する。

【長 期】 戦後最大と同規模の洪水を安全に流し、流域における浸水被害の軽減を図るため、堤防整備等を実施し流域全体の安全度向上を図るとともに、土砂災害対策・内水氾濫対策、雨水貯留機能向上対策を実施する。あわせて、被害軽減のための取り組みをあらゆる関係者と一体となって推進する。

【事業費】（R2年度以降の残事業費）

- 河川対策：約852億円
※直轄及び各県の河川整備計画の残事業費を記載
- 砂防対策：約389億円
※直轄砂防事業の残事業費を記載
- 下水道対策：約139億円
※各市町村における下水道事業計画の木曽川水系の残事業費の合計を記載

【ロードマップ】

※スケジュールは今後の事業進捗によって変更となる場合がある。
※別紙【参考資料】で事例を紹介している施策および実施主体をロードマップ上に表示している（各施策の実施主体はこの限りではない）。

区分	対策内容		実施主体	工程		
				短期	中期	長期
氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策	洪水氾濫対策	・河道掘削（に併せた水際湿地再生）、樹木伐開、横断工作物の改築、堤防強化、堤防整備、地震津波対策、防災拠点整備 等	国・県・市町村	堤防整備等推進 中流部左岸等の築堤完成		
	土砂災害対策	・土砂災害対策（砂防関係施設の整備、治山施設の整備 等）	国・県	砂防関係施設の整備（揖斐川流域） （越美山系砂防事務所・岐阜県） 治山施設の整備 （中部森林管理局・岐阜県）		
	内水氾濫対策	・雨水排水網の整備、排水施設整備 等	市町村	雨水幹線の整備（桑名市）		
	流水の貯留機能の拡大	・利水ダム等9ダムにおける事前放流等の実施、体制構築	国、水資源機構、中部電力（株）、イビデン（株）等	R2年度より継続的に実施		
	流域の雨水貯留機能の向上	・水門川流域における総合治水対策特定河川事業の実施 ・雨水貯留施設整備（雨水調整池等） ・雨水貯留浸透施設設置補助制度 ・流域内における森林整備	国・県・市町村等	森林保全 等 （中部森林管理局・岐阜県・森林整備センター） 雨水調整池整備（大垣市）		
被害対象を減少させるための対策	水災害ハザードエリアにおける土地利用・住まい方の工夫	・立地適正化計画及び防災指針の検討 ・土地の開発指導等 ・最大規模の洪水による浸水を想定した拠点病院の地盤嵩上げ ・消防本部・小学校の高台移転、津波避難施設整備	市町村等	消防本部・小学校の高台移転 津波避難施設整備（桑名市） 土地の開発指導等継続的に実施 立地適正化計画及び防災指針の検討を推進		
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策	土地の水災害リスク情報の充実	・水災害リスク情報の空白地帯の解消（洪水・内水・高潮・ため池・土砂災害等HMの策定・周知）	県・市町村	水災害リスク情報の空白地帯の解消に向けた検討を推進		
	避難体制等の強化	・ハザードマップやタイムラインの見直し・作成支援、要配慮者利用施設等の避難確保計画の作成推進・支援 等 ・木曽川下流部広域避難実現プロジェクトの運用	あらゆる関係者	要配慮者利用施設等の避難確保計画の作成・支援 避難経路や手段の検討 広域避難先の確保 防災教育の継続的な実施と内容の充実（安八町）		
グリーンインフラの取り組み		・自然環境の保全・復元などの自然再生 等 ・魅力ある水辺空間・賑わい創出 等	国・県・市町村等	ワンド・湿地の保全・再生 生物の多様な生息・生育環境の創出による生態系ネットワークの形成		

気候変動を踏まえた
更なる対策を推進

木曽川水系揖斐川流域治水プロジェクト【事業効果（国直轄区間）の見える化】

～ゼロメートル地帯を擁する流域の壊滅的な被害を防止・軽減するための流域治水対策～

短期整備（5か年加速化対策）効果：河川整備率 約71%→約82%

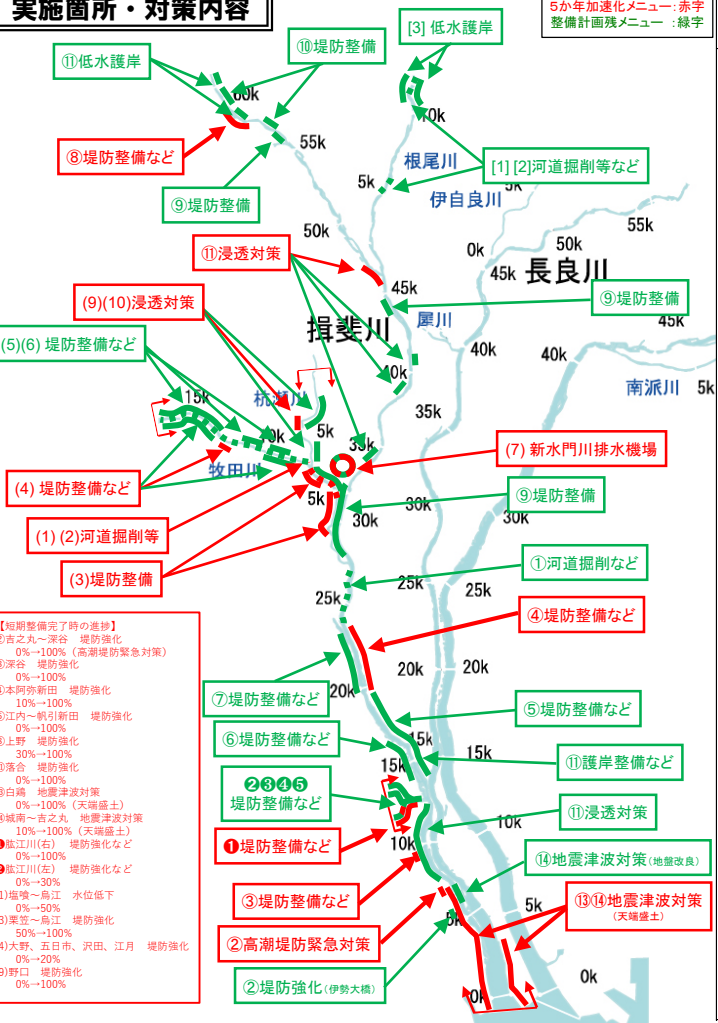
【短期（5か年加速化対策）目標】

●揖斐川においては、下流部の堤防整備を推進し、中高頻度（1/30程度）の浸水を軽減させるとともに、中上流部の堤防整備を実施します。
支川牧田川においては、堤防整備を推進し、高頻度（1/10程度）の浸水被害を軽減させるとともに、河道掘削を実施します。

【中長期目標】

●揖斐川においては、戦後最大洪水となる昭和50年8月洪水及び平成14年7月洪水と同規模の洪水が発生しても、安全に流下させることを目標とし、堤防整備、下流部における地震・津波対策等を実施します。

実施箇所・対策内容

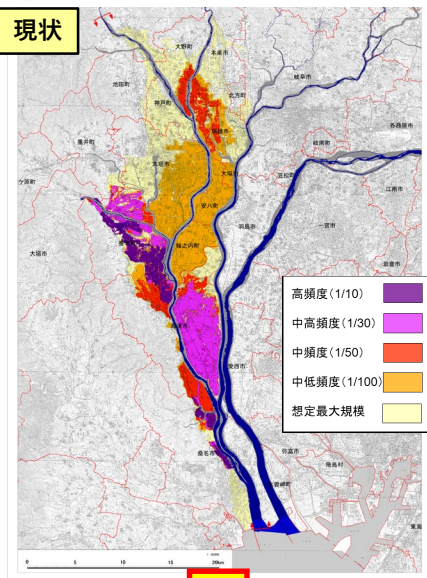


- 【短期整備完了時の進捗】
- ②吉之丸～深谷 堤防強化 0%→100%（高潮堤防緊急対策）
 - ③深谷 堤防強化 0%→100%
 - ④本阿弥新田 堤防強化 10%→100%
 - ⑤江内～軌引新田 堤防強化 0%→100%
 - ⑥上野 堤防強化 30%→100%
 - ⑦落合 堤防強化 0%→100%
 - ⑧白崎 地震津波対策 0%→100%（天端盛土）
 - ⑨城南～吉之丸 地震津波対策 10%→100%（天端盛土）
 - ⑩松江川（右） 堤防強化など 0%→100%
 - ⑪松江川（左） 堤防強化など 0%→30%
 - ⑫塩崎～鳥江 水位低下 0%→50%
 - ⑬室前～鳥江 堤防強化 50%→100%
 - ⑭大野、五日市、沢田、江月 堤防強化 0%→20%
 - ⑮野口 堤防強化 0%→100%

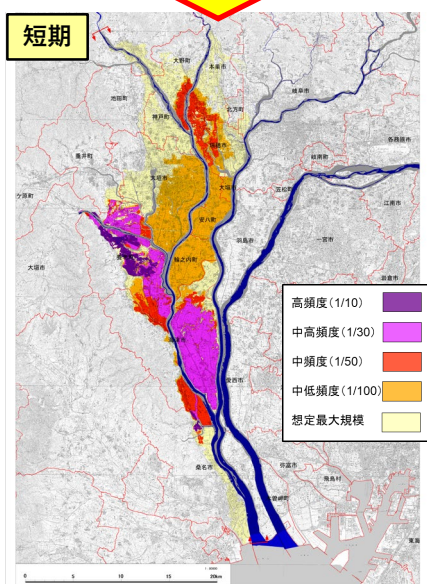
区分	河川	対策内容	区間	工程		
				【5か年加速化対策】 短期（R3～R7年度） 揖斐川 1/10未満→1/10以上（※1） 根尾川 1/50未満→1/50未満（※1） 牧田川 1/10未満→1/10未満（※1）	中期（R8～R12年度） 揖斐川 1/10以上→1/30以上（※1） 根尾川 1/50未満→1/50未満（※1） 牧田川 1/10未満→1/10未満（※1）	中長期（R13～R19年度） 揖斐川 1/30以上→1/30以上（※1） 根尾川 1/50未満→1/100以上（※1） 牧田川 1/10未満→1/30以上（※1）
促進をできるだけ つなぐための 対策（思	揖斐川	水位低下 （河堤掘削） （樹木伐採）	①駒野～大吉新田 （河堤掘削・樹木伐採）		100%	100%
		堤防強化 （堤防整備） （高水護岸） （低水護岸） （浸透対策）	②吉之丸～深谷 （高潮堤防緊急対策・伊勢大橋）	100%	100%	100%
			③深谷 （堤防整備・高水護岸・低水護岸・樋管改修）	100%	100%	100%
			④本阿弥新田 （堤防整備・浸透）	100%	100%	100%
			⑤江内～軌引新田 （堤防整備・高水護岸・低水護岸・高水敷・浸透）	100%	100%	100%
			⑥福永 （堤防整備・高水護岸・低水護岸・高水敷・浸透）	100%	100%	100%
			⑦山崎 （堤防整備・高水護岸・低水護岸・高水敷・浸透）	100%	100%	100%
			⑧上野 （堤防整備・低水護岸）	100%	100%	100%
			⑨松内～福来・津村・下岡島 （堤防整備）	100%	100%	100%
			⑩三輪・北方 （堤防整備）	100%	100%	100%
			⑪大島居・江内・今福町・落合・新屋敷・上東野 （浸透対策・低水護岸）	100%	100%	100%
		樋門・樋管・ 水門の整備	⑫下岡島	100%	100%	100%
		地震津波対策 （天端盛土） （地盤改良）	⑬白鶴	100%	100%	100%
		⑭城南～吉之丸 （地盤改良）	100%	100%	100%	
	排水ポンプの 整備	⑮城南・江内	100%	100%	100%	
	脇川	水位低下 （河堤掘削） 堤防強化 （堤防整備） （高水護岸） （低水護岸）	①臨江川（右） （堤防整備・高水護岸・低水護岸など）	100%	100%	100%
		②臨江川（左） （堤防整備・高水護岸・低水護岸など）	100%	100%	100%	
		③臨江川（左・右） （両側堤防整備・低水護岸など）	100%	100%	100%	
		④多度川（右） （堤防整備・高水護岸・低水護岸）	100%	100%	100%	
	多度川	堤防強化 （堤防整備） （高水護岸） （低水護岸）	⑤多度川（左） （堤防整備・高水護岸・低水護岸）	100%	100%	100%
牧田川		水位低下 （河堤掘削） 堤防強化 （堤防整備） （高水護岸） （低水護岸）	①塩崎～鳥江 （高水護岸・堤防整備）	100%	100%	100%
		②大野・五日市・沢田・江月 ※右岸堤防 （堤防整備・高水護岸）	100%	100%	100%	
		③塩崎～高洞・直江・高田 ※左岸堤防 （堤防整備・高水護岸・浸透対策）	100%	100%	100%	
	④板井・江月～上石津・鳥江～沢田 （低水護岸）	100%	100%	100%		
根尾川	排水ポンプの 整備	⑦横谷根 （新木門川排水機場）	100%	100%	100%	
	⑧鳥江	100%	100%	100%		
	杭瀬川	堤防強化 （浸透対策）	⑨野口	100%	100%	100%
		⑩高洞・高洞～西大外羽・割田	100%	100%	100%	
根尾川	水位低下 （河堤掘削）	⑪海老（第2床固）	100%	100%	100%	
	横断工作物の改修	⑫海老（第2床固）・山口	100%	100%	100%	
	堤防強化 （浸透対策） （低水護岸）	⑬海老・下方・稲高～曾井中島・山口	100%	100%	100%	
	樋門・樋管・ 水門の整備	⑭海老・下方・山口	100%	100%	100%	
揖斐川 など	防災関係施設の 整備	白鶴・本阿弥新田・城南・吉之丸・福永・大巻・大 吉新田・船附・野口・下倉倉など	100%	100%	100%	

※1この安全度は、右側に記載されている確率のうち、最小の安全度（確率）を記載したものを。

現状



短期



・外水氾濫のみを想定したものであり、内水氾濫を考慮した場合には浸水範囲の拡大や浸水深の増大が生じる場合がある。また、この確率以下の洪水においても、侵食等により破堤する可能性がある。
・短期の図については、国直轄事業の実施による効果を示したものである。
・工程及び上図は、今後の事業進捗等により変更が生じる場合がある。

木曽川水系揖斐川流域治水プロジェクト【流域治水の具体的な取組】

～ゼロメートル地帯を擁する流域の壊滅的な被害を防止・軽減するための流域治水対策～

戦後最大洪水等に対応した
河川の整備（見込）



整備率：82%

（概ね5か年後）

農地・農業用施設の活用



2市町村

（令和4年度末時点）

流出抑制対策の実施



11施設

（令和3年度実施分）

山地の保水機能向上および
土砂・流木災害対策



治山対策等の
実施箇所 **100箇所**（※）

（令和4年度実施分）

砂防関連施設の
整備数 **0施設**

（令和4年度完成分）

※施行中 16施設

立地適正化計画における
防災指針の作成



0市町村

（令和4年12月末時点）

避難のための
ハザード情報の整備



洪水浸水想定
区域 **44河川**（※）

（令和4年9月末時点）

※一部、令和4年3月末時点

内水浸水想定
区域 **0団体**

（令和4年9月末時点）

高齢者等避難の
実効性の確保



洪水 **1,556施設**

避難確保
計画 土砂 **150施設**

（令和4年9月末時点）

個別避難計画 **14市町村**

（令和4年1月1日時点）

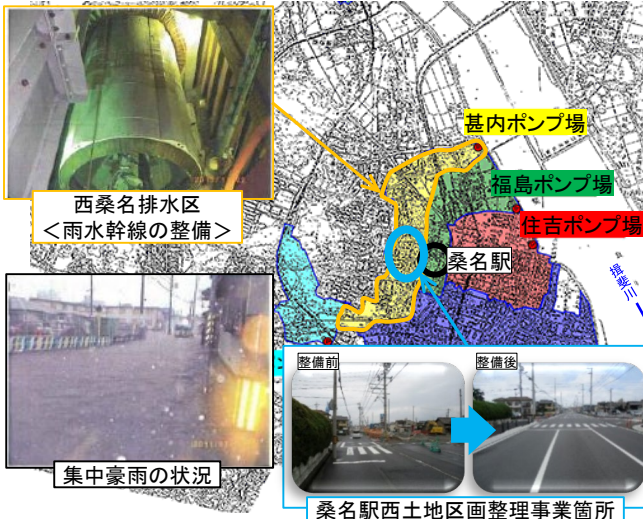
（※）木曽川・長良川・揖斐川の合計値

氾濫をできるだけ防ぐ・減らすための対策

雨水幹線の整備

桑名市総合計画に掲げた「命を守ることが最優先」を実現するため、下水道事業において集中豪雨による浸水被害防止のため計画的な下水道整備を推進している。

また、桑名駅西土地区画整理事業による面的整備との連携を図ることで、災害に強いまちづくりを行う。



＜実施主体＞桑名市

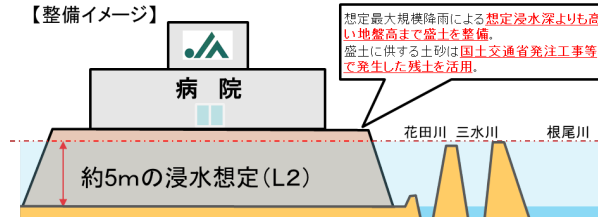
被害対象を減少させるための対策

河川整備と連携した被害減少対策 （西濃厚生病院）

JA岐阜厚生連では、建設中の総合病院を災害拠点病院に指定（予定）し、災害時の重要拠点としての役割を担う。建設にあたり、想定最大規模降雨による想定浸水深よりも高く造成することで、安全性を確保する。



【整備イメージ】



＜実施主体＞ JA岐阜厚生連

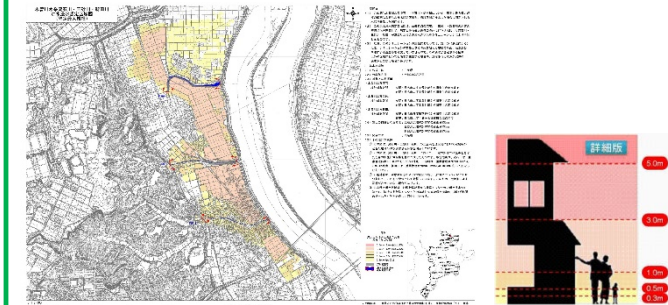
被害の軽減、早期復旧・復興のための対策

水害リスク情報の空白域の解消

令和3年7月の水防法改正により、洪水浸水想定区域図の作成・指定を中小河川等まで拡大し、水害リスク情報の空白域の解消を図ることとされた。

三重県では、洪水に関する水害リスク情報の空白域を解消するため、令和3年度内に、全ての県管理河川における洪水浸水想定区域図の作成を完了。

令和4年出水期までを目標に、全ての県管理河川において水防法に基づく洪水浸水想定区域の指定を行う予定。



洪水浸水想定区域図（流石川、三砂川、新田川）
＜令和3年3月作成・令和3年12月指定＞

＜実施主体＞三重県